

# 2022年度GTセミナー GTサミット2022③

第289号 2022年9月12日発行

## ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や  
ご要望に応えるコンシェルジュがいる  
ように、保育においても様々な  
ご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=  
ミマモルジュとして、保育に関する  
ご要望にお応えしていけるよう  
活動していきます。

株式会社ガガヤ 奥山卓矢

## GTサミット③

2022年8月22日～23日に「GTサミット2022」を  
開催しました。

全国のGT園の園長先生方にご参加頂きました。  
数年ぶりにお会いする園長先生方同士の歓喜の声も会場では  
聞かれました。

本誌含め、4回に分けてGTサミット2022の内容をお送りする  
予定です。

### 【セミナープログラム】

#### 8月22日(月) セミナー1日目

- 13:30～15:30 阿久津先生 ご講演
- 15:30～15:50 休憩
- 15:50～17:50 藤森代表 ご講演
- 18:00 1日目終了

#### 8月23日(火) セミナー2日目

- 9:30～11:30 リレー講演
- 11:30～13:00 昼食
- 13:00～15:00 Q&A
- 15:00 2日目終了



---

## GT サミット 2022 「Q&A」

保育環境研究所ギビングツリー代表 藤森平司氏（新宿せいが子ども園 園長）

---

保育環境セミナーのプログラムでお馴染みの「Q&A」を GT サミット版として実施しました。

参加者の皆様から寄せられた質問に対して、総合的にお答えいただきました。

### 目次

—はじめに—

—少子化対策—

—人類の子育て—

—乳児保育の重要性 1—

—乳児保育の重要性 2—

—最近の研究から分かってきたこと—

—現代に必要な力—

—時代に沿って保育を見直す—

### —はじめに—

最初少し質問よりも皆さんの話を聞いて私が目指すことを最初 2 つ話します。一つは園児が減ってきたという話があるが、保育園・幼稚園がつぶれているという話は変だが、閉鎖するところが多いです。私の園でも、0 歳が定員割れをずっとして集まらないです。途中からは増えてきますが、次第に 1 歳も空き始め 2 歳も空き始めています。それについての話だが、人口減少社会になります。その時に少子化を防ごうと国がいろいろな政策をしています。思うことが 3 つあります。

### —少子化対策—

まず一つは、国が政策をするときに、どんな政策をするかで政権を取って票を集めるために、国民からの支持を得て、国民の問題点を解決しようとしています。明治に入って産業革命が起きた時に、失業者が多く、どうにかしろ！ということが起きます。政府は失業者を減らすために、政策上どんな方法をとったかというと、職場から女性を追い出して、男性の職場を増やす方法をします。そのために、3 歳児神話を作りました。3 歳までは家庭で育てるべきだ、という神話を作りました。神話ですから事実ではありません。失業対策をし、その時に刷り込みを持った女性は、家庭で育てるのがいいだろうと思ったんですね。そのあと戦争が起きました。戦争が来ると男性は戦場に行きます。そのあとに日本に残って守るのが女性。男性と女性の役割分担がはっきりした時がありました。政策上、どういう神話を作るかになった時に今の政権、自民党になった時に、党がどうということではなくて、今の政権は子育ての非難で待機児解消と少子化の 2 つがあります。それに対して待機児解消を安倍さんが 0 にすると言って、急激に園を作ったが、次から次にお金をかけて園を作っても 0 にできない、達成できなかった。そこで取った方が明治を思い出して、子どもは保育園よりも、家庭で育てた方がいい、という神話を作って、育休を 3 歳まで延ばそう、育休をとれるようにした。そうすることで国はお金を使わず、一気に待機児が少なくなりました。急激に 0 歳を預けない、うちの

園で見るとわかるが、1歳がいなくなったのは2歳まで育休を取るからです。そこにコロナによって加速しました。待機児解消のため、もう一度3歳児神話を持ち出してきている。安倍さんの一言で、「これでお母さんは、3年間を抱っこし放題です」と言ったんですね、これを私たちが、子どもの育ちにとって認めていいかですね。まず、空きがどんどん出ていることが事実です。その言い方に3歳児神話だけではなく、少子化を防ぐために、両立しやすいように育休を取らせたという言い方をしていますが、本当にそうかですね。私たちは考えないといけないことが、2つあります。少子化を防ぐことを私たちは必要なのか。それから、少子化は仕方ないから、少ない中での保育を考えるべきかもあると思います。私は両方あると思います。少子化はこのまま行ったら、人口減少社会は問題が起きます。今まで人口が少し多かったから、少なければいいという考え方もあるかもしれないが、この減り方は国が示す通り、アメリカのマスクという人が、これから日本は消滅すると言っていたが、今年の初めに「島根県が今年消滅する」と記事に書かれていたが、それは島根県の県の人口分が今年減り、去年は鳥取県分の人口が減少している。これは問題です。国が成り立つためにどうかの話がある。

## —人類の子育て—

人類がこれまで少子化や人口減少社会があったかという、少子化はないが、人口減少社会がかつてありました。それは多くは戦争や病気だが、それ以前に、人類はもともと二足歩行なってから足が遅くなった。4本足の方が早いわけだから、2足歩行になると獲物として捉えられやすい。もう一つは、私たちの出産できる期間が短い。ですからどんどん減っていきます。そこで人類が取った方法は、毎年生む方法を取ります。毎年生むということで、いくつかやり方があるが、毎年生むためには、一人目をだいたい8、9か月になったら離乳をして、お母さんの膝から降ろさないと生めない。9かくらいに降ろして、離乳をして、次の年の準備をします。安倍さんの抱っこし放題は、3歳まで抱っこしていたら赤ちゃんの数は減るに決まっています。数を増やすならまず一つ目は、毎年生むようにしないとイケない。しかし問題は降ろされた赤ちゃんは、一人では生きていけません。霊長類は成長が遅いので1人では無理です。人類は、おじいちゃん・おばあちゃんに育てさせる。人類は高齢化社会があって、何で高齢化があるかという、生殖機能がなくなったら、他の動物は生きていく必要はないが、人類だけは高齢化の時代がある。高齢者はかつて、赤ちゃんを見させていた。まず毎年生むために家族の形態を作って、毎年見合う形態を取った。しかし現在は、高齢化は働いていて孫を見なくなっているのもみつくなっている。もう一つ証明がある、ある実験でおばあさんが早く閉経すると、孫が生まれやすいと言われているが、それでも2、3人が限度。昔は6、7人産まないといけないということで、家族で集まる共同体をつくります。共同体の中で共同保育をしていきます。チンパンジーは、子どもが4歳になるまで抱っこして次に生みます。これは死ぬまで出産できるからです。オラウータンは7歳までです。人間は8、9か月で降ろします。人類は共同保育をするということは、早く共同保育の中に入れないとイケない。4歳まで家にいたら数は増えないです。共同保育をすることで、子ども集団の中で育つので、その中でストレスが起こる。そこで何が起こるかという、脳の感受性が共同保育の中で急激に増える。敏感期に共同保育をする中のピークで、これが1歳前後に起きるのがエモーショナルコントロール。共感力のビジョンも1歳半から2歳くらい。1歳前に多くの言葉を聞くことで、多数の多くの人の中で育てられることに意味がある。それが社会脳という存在が見つかり、社会力ということが起きています。トマセロという人が、「人はなぜ協力するか」の本を書いたが、9か月革命というものを発見します。9か月になると他者を認識する。母子の二項関係から三項関係に置くべきとっています。いろいろ見ると、3歳児神話やワンオペ育児は不自然です。人類にとって、赤ちゃんがお母さんの元に育てることがいいことだということが、いかにつくられたものであるか。未だに赤ちゃんから預けるのは、かわいそうという人が

多いですね。家に置く方がいいと言って、育休を取らせると社会脳が育ちません。赤ちゃんをお母さんだけで育てることを人類はしていませんので、理屈でわかるけど無理ですね。お母さんが参ってしまうので、政府は保育園を作りましょう、男性にも育休を取らせましょうとなる。女性だけが育てるのもおかしいが、人類は一緒になって育てることはない。ただ北欧では、育休を取るのは赤ちゃんのためだけではなく、女性だけにハンデを背負わせない。男性も取らせるべきということで、二人目は男性が取るとかある。日本はお母さんが負担だから男性も取るというのではない。これで社会性が育つかですね。

## —乳児保育の重要性 1—

そう思うと、まずいくつか私たちが考えないといけないのは、乳児保育は、子どもにとって意味があると訴えないといけない。今回のコロナではっきりしています。コロナで自粛している子のストレスサインを測ったら、走り廻るなどの行動が見られた。これは、ウクライナでロシアに監禁されていた子が見せている。同じ症状が自粛中に出ている。不思議だと言っているが、通園をさせた子たちにはストレスサインがなかったという結果を出している。保育通信に載っていたがコロナ禍でも、頑張って開園した園が報われていて良かったですねと書いてあったが、ある時間は子ども同士の関係の中の方がいいということです。これを2, 3歳までの母子関係の中だけだと、子どももお母さんもストレスがあると思います。この考えを変えるのに言いたいのは、児童福祉法を守ろうとする運動をする人たちにですね。なんで補助金を使うか。それは保育園は誰のためにあると思いますか。働く親のためではなく、子どもを守るためにあります。24条に何らかの事情で保育できない、守るためにあると書いてあるんですよ。だから補助金を使っているためですというが、それは間違っていると思うのが、親が出来ないから、何等かの理由があって見ているではなくて、保育園は子どもにとって必要な育ちのための施設といわないとですね。親が見ようが見まいが関係ないです。私は児童福祉法から早く出て、教育基本法に入れて、子どもは教育される権利がある。それを自治体が責任をもって保証する、だから公金を使う方に入れるべきで、乳児から教育を行う概念を変えないといけないです。親が見れないから、私たちが見るというのはおかしいです。子ども集団から学ぶのは教育ですから。これからAIの時代になって必要になるのが、共同性なんです。それを身につけるのが教育のトップです。赤ちゃんから身につけていくためには、子ども同士の中に置かないといけないです。だからと言って今の保育園は長すぎる。10,11時間園の中にいたらストレスが溜まります。育休を3歳まで取らせていいけど、育休中でも預けられるようにするべきというように、1号認定という働いていても、働いていなくても入る権利を与えるべきだと思います。そうすれば、今の空いている状況はなくなると思います。今は家で育てているからですね。少子減少社会を考えたら、子ども集団を意図して求めないといけない。

## —乳児保育の重要性 2—

中国で急激に乳児保育が求められるようになったが、これまでは両親は元から働いていますから、小さいうちはおじいちゃん・おばちゃんが見ていたから、乳児保育はいらなかった。教育は幼児からということになっています。中国での講演の質問で、おじいちゃん・おばあちゃんが見ているからいいという話があった時に、「わかりました。おじいちゃん・おばあちゃんが観てください。しかし、おじいちゃん・おばあちゃんの時代のように2つ条件がある。兄弟を10人くらい生んでください、産んでいるなら施設はいりません。もう一つはAIを使わないでください。」と答えました。それは時代が変わってきている。当然変えないといけないと言ったが、政府は勉強をされていて、急激に乳児からとシフトしはじめたのは、ピサの学力調査が思考力から共同思考力になったら最下位になってしまった。それは一人っ子政策なので、それをふたりっ子政策、増えないから3人っ子政策にしたが増えない。だったら施設に

入れるしか集団体験ができないんです。なので、急激に乳幼児教育を作ったんです。未だに日本はまだ家庭がいいという言い方はおかしいです。家庭がいいということで、お母さんの代わりをする。言い方としては、アタッチメントを愛着形成として1対1で見ようというする。担任制の考え方を作ってしまう。人類にそんな時代はないです。その方が情緒が安定するなら、そういう方法をどこかの時代ですべてしていますよ。それは刺激が少ないから、一人にしがみつくが、これがもう一つ問題がある。

## —最新の研究から分かってきたこと—

何かというと、幼児教育は集団を基本にした教育方法が考えられているが、乳児保育は心理学を中心に構築されている。心理学は基本1人の子どもの発達の追跡調査。大人とは、せいぜい母子関係の研究なんです。アタッチメントという安心基地が必要なんだということは、もちろんあるわけです。それを母子関係で研究したら一つの行動でくっつき行動を起こすが、愛してくっ付くという字を当てはめて愛着とした。私たちの現場では、くっつき行動を園ではほとんど見られません。遠藤先生が愛着という言葉を使わないで、アタッチメントという言い方しかしません。園で必要なのは、不安な時にいつでも駆け込める基地があるということです。いつもくっついて世話をするのではなくて、いつでも駆け込める場所。分かったのが、不安な時に駆け込めるのを意外に他の赤ちゃんに求めることが多い。これが多分、共同保育で培われていた遺伝子ですね。子どもの力で無理な場合は大人に行きます。もともと持っているかということ、アタッチメント対象を選べるからです。家庭では特定な人はお母さん。園ではそれを当てはめてはまずい、そうすると他のことが見えてきます。2歳児のいやいや気があり、保護者から質問が多い。職員に聞くと、いやいやはあまりない。やたら聞いてくる自己主張。2歳はいやいや気は家庭です。園では質問来、自己主張期として、施設の子どもの姿が、心理学と違うのではないかと見えてきます。胎児の研究から分かって来て、集団が必要と同時に、1歳半まで位の能力があるとわかってきている。例えば原始反射、にこっとする。新生児スマイルを原始反射とって、意思はないけど、自然となってしまうとって、行動してしまうと言われていた。にこっとするのは、愛を喚起するためといわれているが、実は最近の研究で、胎内にいるときからにこっとする。胎内で誰に向かって愛を喚起しているのか。今現在では、生まれた後の練習をしていると言われてます。ということは、意思があるのではないか、自発的な行為といわれています。ということがあって、赤ちゃん研究が進むにしたがって、好き嫌いは、舌で感じて味覚を感じる。栄養は口を通っていないので、おへそから取っているから味覚を感じていないが、羊水を口から入れて、排泄していることが分かった。羊水に酸っぱい味をつけると、吐き出して、甘くするとにっこりする。好き嫌いは感情的な物ではなくて、生まれた後の練習。毒のあるものは飲み込まないので、苦い味をつけるということをする。甘いものはリスクが低いので、にっこりする。好き嫌いは自己防衛とわかってきた。胎内の赤ちゃんの研究が進むにつれて、これまでの研究が否定されてきている。赤ちゃんから子ども集団で学ぶことが多い。大人の中で学ぶことが多い。

## —現代に必要な力—

グローバルの時代になると、人の共感する力があるのは、1歳前後に起きるということは、母子だけの顔しか見ていなかったらその力が育たない。育休を2, 3歳までに母子の中に置くことは危険なことだと思います。保育園が空くということは、運営的なことではなくて、育ちの中で危険なことです。園にはいろいろな人がいること、人の中で育つことを再現することなのですね。ある園の園内研修をしたときに、保護者からモンテはどうですか？と聞かれた。モンテは素晴らしいと思っています。子どもが多かった時代に構築されたものです。子どもが多い中でかけるのは、一人ひとりの発達することが欠けるので、教具を使って行うのは、一人でやるもので、フレーベルの恩物も一人でや

るもので、集団でやるものはないです。修正を日本ではしていますが、そうするとそれはモンテではないです。ですから、モンテは非常に素晴らしいし、使うべきだが一人の考えが強い。分かったことが、うちの職員でモンテの園に子どもを通わず職員がいます。保育参観に行ったら、給食の前にテーブルクロスを敷く。畳んだテーブルクロスを置いて、印があって広げていく。それを見て、一人でちゃんとやっているを見たが、角の方が変になっていたのを他の子が直そうとしたら、先生が手を出さないでといった。モンテは一人で全部やることで、手の運動機能を発達させることを構築させたので手伝ってはダメなんです。でも今の時代は、協力することが課題だから今は、手伝うことが今の力としては大事なんです。モンテはいいか悪いかではない。考え方は素晴らしいが、育てるものの力が違うということです。モンテはヨーロッパではあまりやっていません。アメリカは権利条約を批准できないので、一人一人をきちんと、ということをやまずしないといけませんが、ドイツへ行ったときにレーゲンスブルクの街にモンテの学校があり、見に行った。ミュンヘンの教育局の人が、園の人に「コーナーがあるが、ごっこコーナーやブロックコーナーがないんですか？」と聞いたら、「子ども同士が共有して遊ぶ遊びは一つありません」と答えたんです。「それは、家庭で学ぶことです」。モンテは、子ども同士の関わりは家庭・地域の役目なんです。それは、その時代で今の時代では学べないのにも思ったが、ままごと一人でアイロンをかける。洗濯を干すなどはあるが、お互いが役をやって、いらっしやいませなどはない。ブロックの恩物も、一人用のもので共同して大きく作るものはない。白紙論の頃なので、指導しないといけないということで、先生が教具を使うことから始まります。子どもに自由にしているというが、エピソードを読むと素晴らしいが、ある時カギをかけるのを忘れて帰った。次の日行ったら、子どもが勝手に柵から出して、遊んでいたが、その方がイキイキしている。子どもにはカギは必要ないと書いてあった。そこまでは自由なのに、使い方はきちんとしないといけない。もう一つが、せいがの森の開園1年目の時に主任を置いていた。その時、モンテの学校の講師だった。うちの考え方は、モンテに近いと言われていたが、その時もめたことがあった。細長い画用紙を置いてはさみで切る。これはモンテにあります。教具は作っていなかったが園にあって、これがピッチャー移しとか、豆移しとかがある。あるモンテの実践園からのしおりがあったのが、豆移しについて書いてあった。豆を移し終わり、移し終わった子にどんな声掛けをするか？「よく出来たね」というかと思ったら、「もう1回こっちに移してみよう」となっていた。じゃあ、なんで動かすの？と思うのは、モンテは手段を目的にします。私は、手段を手段とすべきで、はさみで切ったら、切ったものをアジサイの絵を描いて額を貼って、大きいものを作るとか、切ることを手段にしてほしい。切ることを目的にしないで欲しいと当時の主任に言ったことがある。切ることが目的なので、もう1回切るようにとかでは、達成感がないのではと思ってしまう。それは白紙論から来ているからやることで、どんどん吸収すると考えられていた。集団がどうかという話で、モンテは素晴らしいが塾とか、お母さんが家でやってあげるのには最適だと思います。園でやるなら、共同です。

## —時代に沿って保育を見直す—

うちが成長展で成長を見せるが、一人ひとりの成長だけではなく、集団で何が出来たかを見せたらと先生たちと考えたのが、積み木を早送り撮って、二つ塔が立って、こっちは違う積み重ね方をしようと話し合いながら、大きなものを作ることを撮った。この力もまた大事ですよ。私は成長展は、一人ひとりの発達の経緯を見せるだけではなく、共同して何が出来るかも大切で、今年の夕涼み会のSTEMフェスティバルの最後に、運動会や遠足は何で行事なったのか。当然これは軍事教練を披露する。組体操や騎馬戦、それは軍事教練のように見えるが披露するもの。遠足も遠くまで歩く。これからの時代はSTEMは政策課題の一つに入っている。だったら、STEMフェスティバルは行事になってもいいのかもねといった。いつまで運動会などの軍事教練を行事にするのではなくて、これから必要な力を

見せるならSTEMフェスティバルでもいいかもねといった。当たり前で明治以降の行事をそのままやっているが、運動会を止めて「成長展」体の発達を見せる行事。お楽しみ会は、言語と表現の発達といって、うちの園では成長展を3回行っています。遠足は遠くまで歩くのではなくて、地域を知ることをしてしています。今年のテーマは「水」なので、水をテーマにしたところを廻るとかをしています。行事は、その時代にどういうことが必要かがあったので、今までやってきたからといって、当然のようにやるのは違うのではないかと思います。コロナ禍によって、見直さざるを得なくなった。多くの人が集まってよかったのだろうか、見直すことが起きてきたので、それをきっかけに見直すときに、コロナだからではなくて、コロナに関係なく見直した結果、こうなったにしようとした。雑誌の取材で給食の考えたことで、コロナによって考えたのではなくて、今後のやり方を見直したと言った。コロナが終わったら戻しましょうでは意味がないので行事も時代で考えた。

本稿は、2022年8月23日に開催したGTサミット2022の「Q&A」の内容をまとめたものです。

(文責/奥山卓矢)